

(5) 第5次長期5か年研究推進計画 平成6(1994)年度～10(1998)年度

研究主題

「郷土の未来を拓き、たくましい実践力をもって主体的・創造的に生きる心豊かな子供の育成」
～へき地・小規模・複式学校の特性を生かし、
児童生徒一人一人を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実・発展を旨として～

特徴的な課題

へき地・小規模・複式学校の児童生徒にとって、重要度・緊急度・必要度の高い課題として、先に「心の豊かさ」と「たくましさ」「主体性・創造性」さらに「国際性」の育成をあげた。

このことを踏まえ、道へき・複連の第4次長計の研究主題を受け、上記研究主題と副主題を設定した。

道へき・複連は、第5次長計を策定するにあたって「心豊かな人間の育成」「基礎基本の重視と個性教育の推進」「自己教育力の育成」「文化と伝統の尊重と国際理解教育の推進」という4つの基本方針を組み入れた。

特徴的な課題として、以下の事柄を積極的に取り入れていくことが求められた。

- ① 心の教育を重視していくこと。特に、生命を尊重し、他人を思いやる心の育成を重視すること。
(道徳教育、環境教育)
- ② 個性の伸長を図る教育の理念を明確にすること。特に、基礎的・基本的内容を児童生徒一人一人に身に付けさせることとの関連を明確にすること。(個性の伸長、学習内容の重点化)
- ③ 「主体的な学習」の進め方を身に付けさせること。特に、自らを高める目標をもち、学ぶことの楽しさや成就感を体得できる体験的な学習や問題解決的な学習を重視すること。
(情報処理能力)
- ④ 郷土の伝統・文化に関心を持たせること。諸外国の人々の生活や文化を理解し、尊重していく態度を育成すること。

特色ある学校・学級経営

これからの社会は、国際化、情報化などの急速な進展により、著しく変化することが予想される。このような社会の変化に対応できる資質と能力を養うことは学校教育の責務である。そのために道へき・複連では、家庭や地域社会のもつ教育力を生かし、学校が地域社会に生き、地域社会を生かす中心的な機関として「開かれた学校」の実践をし、保護者・地域住民とともに歩む教育をめざしてきた。

とりわけ、へき地・複式・小規模学校では、教育目標を明確にとらえ、目標達成のために、地域の教育環境を最大限に生かし、「特色ある学校・学級経営」の創造・推進に努めてきた。また、教職員の共通理解、協働意欲、コミュニケーションの三要素を重視した学校づくりを進めてきた。

「特色ある学校・学級経営」とは、自校の教育目標達成のために、へき地性、小規模性、複式形態という三特性を生かし、「児童生徒一人一人に目を向けた」「地域に根ざした」学校・学級経営のことである。

児童生徒数が少ないへき地の学校においては、一人一人の特性をよく把握し、それを指導に生かすことができる。縦割り班による全校活動や近隣学校との合同学習や集合学習、工夫した自治的な活動集団による特別活動など、地域に根ざした特色ある教育活動を成功させているのは、児童生徒一人一人が主役となって活動していることによるものであり、小規模学校のよさはここにある。

研究課題と研究内容

学校・学級経営の深化と充実	
目標 「地域の教育課題を踏まえ地域・父母とともに、子供の心を育て個性を生かす経営の創造」	
課題1 子供の個性を生かす経営理念と教育計画の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の個性を生かす教育目標達成のための経営構造の明確化 ○へき地・小規模・複式形態の特性を生かし地域に根ざした教育計画の構想と実践 ○子供一人一人の個性を生かし、多様な体験を重視した特別活動の工夫
課題2 地域の教育課題を踏まえ、地域父母とともに豊かな心を育む教育活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を図り、豊かな教育環境を設営し、充実した経営の推進 ○道徳的実践意欲と態度の向上を図る道徳教育の指導計画の改善・充実 ○道徳的実践力の向上を図る道徳の時間の充実
課題3 郷土の自然・文化・伝統などを尊重し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土への愛着と国際感覚豊かな人間の育成を図る学校・学級経営の樹立 ○学校や地域の特性を生かした教育課程の編成・実施 ○体験的な学習を通して自主性や連帯意識を高める特別活動の指導計画の改善・充実
課題4 学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・学級経営の活発化をめざした評価活動の推進 ○地域や学校の実態に即した集合学習、交流学习などの協業化 ○学校の実態に即した校内研修の充実と近隣校との協力・協業化による共同研究の推進
学習指導の深化と充実	
目標 「個性を発揮しながら、自ら学ぶ態度・能力を身に付け、共に高まっていく学習指導の創造」	
課題1 子供の興味、関心、意欲、態度などを重視し一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な内容を明確にした指導計画の改善・充実 ○子供一人一人の特性を生かし、個性を伸ばす指導計画の改善・充実 ○各教科の特質及び学年差、個人差を踏まえ、子供の発達段階を考慮した指導計画の改善・充実
課題2 地域の教育環境を生かし、地域・父母との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然や文化などの地域環境を生かした指導計画の作成・充実 ○家庭・地域社会との連携による豊かな心を育成する指導計画の改善・充実 ○幼・小・中の連携を図った指導計画の作成・充実
課題3 課題意識を持ち、自ら解決し、仲間と共に進める問題解決的な指導過程の改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○子供一人一人の学習意欲を高め主体的に解決する学習のあり方の改善・充実 ○子供一人一人の多様な考え方を生かした指導過程の改善・充実 ○教科や教材の特性に応じた問題解決的な学習指導過程の改善・充実
課題4 学ぶ楽しさや達成感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域素材の教材化を図り子供一人一人が主体的に学習に取り組める指導方法の改善・充実 ○へき地・複式・小規模校としての特性を生かした体験的な学習の指導方法の改善 ○子供一人一人がわかり、生き生きとした学習を展開するための指導方法と評価の改善・充実

研究の成果と課題

○学校・学級経営の深化・充実

ア 研究の成果	
<p>課題1 子供の個性を生かす経営理念と教育計画の確立を図る。</p>	<p>○へき地・複式・小規模学校の特性を十分に踏まえつつ、個性を生かす経営理念を確立することができた。</p> <p>○主体性・創造性を育てる指導のあり方、教育課程の改善など、学校・学級経営の構造を明確にした実践・検証を進め、基礎的・基本的内容を子供一人一人に身に付けさせることができた。</p> <p>○総合的な学習や創造的な学習活動を取り入れ、子供一人一人の能力や適性に即した指導方法の工夫・改善、協力教授組織などにより、全校的な学習、集合学習など、社会性や協調性の育成をねらいとした教育活動で成果を上げている。</p>
<p>課題2 地域の教育課題を踏まえ、地域父母とともに豊かな心を育む教育活動の推進を図る。</p>	<p>○へき地・小規模・複式学校では、地域の教育力を見直し、学校・家庭・地域相互の教育機能を認識し、長期的展望にたった経営の推進をしてきている。</p> <p>○また、地域の特色を明らかにし地域素材を教材化した教育課程の編成・実施、地域父母・行政と一体となった全村教育、勤労体験学習の組織化、及び道德と特別活動の関連など具体的な計画を立てて実践してきている。</p>
<p>課題3 郷土の自然・文化・伝統などを尊重し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営を図る。</p>	<p>○へき地・小規模・複式学校では、学校の教育目標の具現化を目指して、地域素材を生かし、子供の心情を育てる教育活動を推進している学校が増えてきている。動植物の飼育栽培により生命に対する感動も豊かになり効果を上げている。</p> <p>○地域の産業と結び付いた勤労体験学習も父母との連携の中で進められている。また、地域の環境を生かし、子供の実態に即した全校的な体力づくりを実施し効果を上げている。</p>
<p>課題4 学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。</p>	<p>○へき地・小規模・複式学校では、教師の指導力を高め、共同研究体制を充実し、地域が求めている課題を関係学校が目標を同一にして取り組み、教育効果を高めている。集合学習、交流学习などにおいて協業化を進めるとともに、学校・学級経営の評価活動を通し、その改善充実を図っている。</p>
イ 今後の課題	
<p>○へき地・小規模・複式学校では、子供一人一人に目を向け、子供が伸びる可能性を信じ、21世紀にたくましく生き抜く意志と実践力の育成に向けて、経営理念と教育計画を明確に樹立することが大切である。</p> <p>○個性を生かし、自己教育力を育成するため、体験的な学習や問題解決的学習を重視した教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、教育目標の具現化を図っていくことが大切である。</p> <p>○地域の持つ教育力を生かした実践を更に重ねるとともに、多様な角度からの教材化や人材活用を図る必要がある。</p> <p>○適正規模の学習集団確保のための集合学習の拡大、ゆとりある運営をしていくための工夫・改善とともに、マルチメディアの活用も視野に入れ、全教職員の共通理解、組織化・研修時間確保などの課題を解決していく必要がある。</p>	

②学習指導の深化・充実

ア 研究の成果	
<p>課題1 子供の興味・関心、意欲、態度などを重視し一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の本質や目標を踏まえ、指導内容の重点化を図り、子供の興味・関心、意欲、態度を重視し、一人一人の個性や能力を伸ばす指導計画の改善・充実が図られた。 ○自ら学ぶ意欲と主体的な学習態度を育成することを明確にし、自主的・自発的な学習が促されるよう体験的な学習や問題解決的学習を取り入れた指導計画の作成が進められた。 ○個人差や学年差に応じ個性を生かす同単元同内容指導計画及び学年別指導計画の改善・充実が図られた。 ○子供の実態や三特性を踏まえ、一人一人に基礎基本の定着を図るため、自ら学ぶ態度や思考力・判断力などを育成するため、指導内容の重点化が図られた。 ○個別の指導目標を導入することにより個の実態に応じた手だてを明らかにすることができた。 ○体験的な学習を指導計画に位置づけることによって、基礎的技能や表現力を高めることができ、子供たちに意欲的な学習態度を育てることができた。
<p>課題2 地域の教育環境を生かし、地域・父母との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○恵まれた自然や身近な社会環境を教育課程に位置づけ、地域の自然や施設などを積極的に活用し、生活体験を豊かにさせる活動が意図的・計画的に進められた。 ○地域の素晴らしさを発見し、地域から学ぶ姿勢を育てるために教育的な価値のある地域素材の教材化を図り、体験的な学習を取り入れるなど、自ら学ぶ意欲や実践的な態度を育てる指導計画の作成が進められた。 ○地域に根ざした教育を充実させるため、学校外の優れた専門家から学ぶ機会を設け、その知識や技術を教育活動の中で積極的に活用するなど、地域の教育力を最大限に取り入れた指導計画の作成に努めた。 ○地域の豊かな自然を生かし、地域素材や人材の発掘と活用を図り、意図的・計画的に教育課程の中に位置づけられることにより子供一人一人が自然に親しみ、意欲的に活動するようになった。
<p>課題3 課題意識を持ち、自ら解決し、仲間と共に進める問題解決的な指導過程の改善・充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子供一人一人に学ぶ意欲や思考力・判断力・創造力・表現力などを育てるとともに、基礎的・基本的な内容を身に付けさせるように問題解決的な学習を重視した指導過程の工夫が図られた。 ○子供一人一人の個性や能力に応じた思考過程などを大切にするとともに、自ら課題意識をもち主体的に学習に取り組み、課題を解決する力を育てる指導過程の工夫がなされた。 ○子供一人一人に課題意識をもたせ、個別化・集団化の位置づけを図りながら、意欲的・主体的に学習に取り組みさせることによって、問題解決につながる指導過程の改善・工夫が図られた。 ○多様な考えを生み出す課題提示の工夫や、解決・努力の段階における指導を充実させることによって、自力解決への意欲を喚起するこ

<p>課題4 学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。</p>	<p>とができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供一人一人の設定した課題を授業で取り上げたり、ワークシートを活用するなどして、学習課題、解決方法、予想、まとめを自らの力で進めることにより、学習意欲を高めることができた。 ○地域に根ざした体験的な学習を重視した教育活動を展開するとともに、地域素材の教材化を推進することにより、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・創造力・表現力などを育成するための指導方法の改善・充実が図られた。 ○新しい学力観に基づき、子供一人一人の興味・関心を一層重視した学習を展開することにより、自ら考え、判断し、行動できる創造的な能力を育成する指導方法を確立することができた。 ○子供一人一人の個性を生かす指導方法の工夫や、基礎・基本を習得させながら成就感・満足感を味わわせる体験的な学習を推進することによって子供の側に立った指導方法の改善・充実がなされた。 ○評価の目的や方法を明確にすることにより、子供一人一人の実態やつまずきが見え、教師の支援活動につなげることができた。 ○自己評価や相互評価の方法を工夫することによって、子供たちがより主体的に学習に取り組むようになった。
<p>イ 今後の課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○へき地・複式・小規模校では、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことを重視し、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実を目指し、地域・学校・子供の実態を踏まえて、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進することが求められている。 ○各学校においては、三特性を劣性としてではなく、教育の活性化を図るための利点として生かす発想をもち、教育活動を一層充実させることが課題である。 ○指導計画の作成においては、子供の実態をとらえ、学年差・個人差に配慮しながら、個を生かし個性の伸長を図ることが大切である。そのためには、安易な同内容指導に流れることなく、学習の個性化と、指導の個別化を進めていく必要がある。 ○自力解決に向けて課題意識の持続化、間接指導時での話し合い活動の深化、学習の手引きの活用などの実践的な研究が必要である。 ○複式指導では、授業を支える基礎的な学習の仕方の定着と教科の学び方を身に付けさせ、間接指導時の学習活動を充実させることが大切である。 ○子供一人一人のよさや可能性を伸ばすための共感的な評価と、支援的な指導を一体化させるなど、きめ細かな評価の研究を進めていく必要がある。 	